

「二五穴ーこの水はどこへ行くのかー」

20分、2018年製作、歴博研究映像

製作協力：毎日映画社

総合制作：内田順子、監督：西谷 大・島立理子

1. 「二五穴」とはなにか

「二五穴」は、千葉県房総丘陵の小櫃川周辺に作られたトンネル状の用水路で、トンネルの大きさが「二尺五尺」（およそ60cm×150cm）であることから「二五穴」と呼ばれる。江戸時代の終わり頃から作られ始め、現在も利用されている。ひとつのトンネルは、長いもので200～700mある。トンネルをつなぐと、全長は10kmにもなる。

2. 「二五穴」の特徴

- ・歴史的遺産：江戸末から明治初期に作られ、現在も使われている
- ・文化的遺産：文献・人々の記録と記憶が残っている
- ・環境問題：これからの環境問題を考える上で重要である
- ・地元力：地域社会に未来へ残そうとする気力がある

3. 歴博共同研究

「日本の中山間地域における人と自然の文化誌」（H24-26年度）による調査

- ・多様な研究分野・研究者がひとつのフィールドで調査
近世史（文献）・民俗学・生態人類学・生物学・地質学・考古学等
- ・職場に近く日常的に通えるフィールドを選択
- ・研究成果を地元へ還元（展示・講演会・論文・エッセイ等）

4. 足りない点

研究成果の地元への還元が研究者・調査者の一方的な情報提供になっていないか？

- ・地域の歴史を残すための、地域の人びととの「協働」作業がたりない
 - ・歴史記録、保全するとともに未来を担う人びとに活用してもらう手段がたりない
- ⇒地域人びとと「協働」して映像を制作し、活用する

5.2 種類の映像を制作

- ・編集方針の異なる2本の映像を制作
- ・2本の映像をあわせることで1つの作品

⇒映像は、地域の記憶と思いと期待を紡ぎ、地域力・地元力を育む力になりうるか？

映像その1「二五穴ー水と米を巡る人びとの過去・現在・未来ー」

過去および現在の記録に重点をおき、以下の点を歴史資料やインタビューで丁寧に説明しながら映像を構成。

- ①二五穴をめぐる技術は地域社会の人々の力だけで持続的な維持と利用が可能
- ②深い歴史的な意義
- ③二五穴の歴史は、時代の流れのなかで常に変化していく

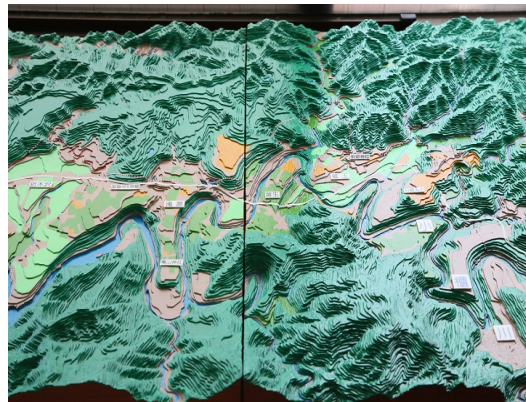
映像その2「二五穴ーこの水はどこへ行くのかー」

二五穴をめぐる人びとの、さまざまな記憶、思い、感情に重点をおき、感覚的な共感を軸に映像を構成。

.....



調査地の位置

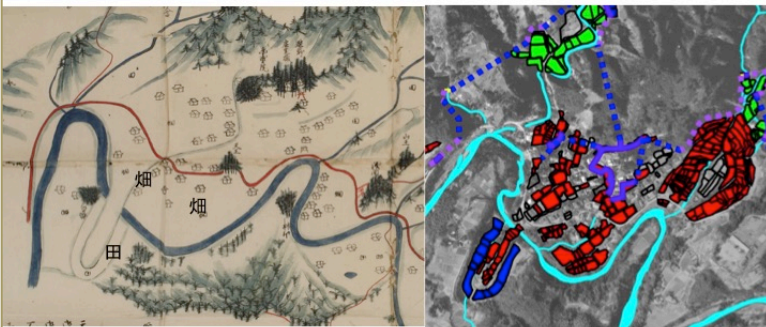


千葉県房総丘陵は谷が深いので、川と耕作地の標高が大きく、江戸時代には、目の前を流れる小櫃川から直接水を引いて農業用水にすることができなかった。

二五穴ができる前と後

畑が多いことに注目

赤が二五穴の灌漑域
畑が田んぼに



■ 二五穴用水の灌漑域